

【吉岡町】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

本町では、第6次吉岡町総合計画において、「学びのまち・吉岡」の推進をすべく学校の教育活動の充実を目標に掲げています。また、第3期吉岡町教育振興基本計画においても学校教育の充実を基本計画に掲げ、ICT環境の整備と充実を行うため、国のGIGAスクール構想に連動した吉岡町の「HiBALIプラン」と銘打ち、活用の状況と将来を見越しながらICT機器や学習支援ソフトの計画的な整備・更新を進めるとしている。

授業や家庭学習においてICT環境を日常的に活用することで、小中学校における「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現し、豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き抜き、社会の形成に参画するための資質能力を確実に育てるとともに、資質・能力の三つの柱（「生きて働く知識・技能」「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養」）をバランスよく育成することが、本町の目指す学びの姿である。

2. GIGA第1期の総括

国のGIGAスクール構想を受け、本町では、令和2年度中に町立小中学校3校の児童生徒に対し、計2,235台の1人1台端末の整備を完了するとともに、高速通信ネットワークや無線LAN環境の整備を行い、ICTを基盤とした新たな学びの確立を進めてきた。

令和2年度においての「HiBALIプラン」はICT環境の整備を第1の目標としたが、その後プランのバージョンアップを行い、ICT機器の利用が目的ではなく、あくまでツールとして既存の学習環境に溶け込ませることができた。一方で活発な利用に伴い通信速度の不足が懸念されており、今後も通信環境の改善は課題となっている。

3. 1人1台端末の利活用方策

スタディログ等のデータ活用による生徒の興味・関心や習熟に応じた個別最適な学びや、デジタルツールによる共同編集リアルタイムでの意見共有を通じた協働的な学びを推進することで、1人1台端末を活用したより深い学びを実践している。

また、端末の家庭への持ち帰りを実施し、家庭学習や保護者との連携を強化するほか、授業における情報収集や発表に役立てる。

導入しているアプリケーションとしては、Google Workspace for Education やスタディサプリなどがあり、これらを通じて協働学習や個別指導を実現している。さらにGIGAスクール支援センターを設置し、教職員や児童生徒への支援を行っている。